

## 福井平野における在郷町東郷の役割と空間構造の変化に関する研究

在郷町 都市形成史 空間構成  
福井

正会員 ○ 柴田 純花\*  
正会員 西村 幸夫\*\*  
正会員 窪田 亜矢\*\*\*  
正会員 黒瀬 武史\*\*\*\*  
正会員 中島 伸\*\*\*\*\*

## 1. 研究の着眼点

在郷町は、農村地帯における町として、「都市的要素と農村的要素が社会的・空間的に混在」<sup>1)</sup>しながら町を形成するという特質を持っていた。しかし、在郷町が成立した江戸時代以降、各時代での都市構造の変化により、在郷町の果たす役割と空間構造は大きく変化してきた。都市全体の構造の変化を経て、各在郷町が現在抱える問題は様々である。特に、地方都市周縁部では、人口減少や高齢化といった問題に向き合わざるをえない。農村地帯の核であった在郷町は、地方都市周縁部における新たな地域計画においても、肝となる存在と言える。

在郷町に関する既往研究は、在郷町内部の空間構成を対象としたもの及びその変化を追ったもの、在郷町時代の歴史的建造物を対象としたものが多い。本稿では、在郷町が周辺農村及び都市との関係の中で町を形成してきたことに着目し、在郷町の役割と空間構造の変化を明らかにする。対象地として、福井市東郷を取り上げる。

## 2. 福井平野における東郷の立地特性

戦国時代、一乗谷で山城を築き朝倉氏が栄えた。近世になると、柴田勝家が北ノ庄に城を移し、平野部の発展が始まった。また、参勤交代の制度が確立されると、大野藩の参勤交代路として東西方向の東郷街道（別称：美濃街道、大野街道）が整備された。中世及び近世に、福井平野東部の骨格が形成されたと言える（図1左）。

近代以降、福井城下を中心として市街地の範囲が拡大する。特に、北の石川県や南の敦賀市・京都府へと通じる南北方向に重きがおかれ、鉄道網や幹線道路が整備された。それに伴い、市街地も南北方向へ大きく拡大した（図1右）。

以上のような発展過程の中で、東郷は福井平野東部の山

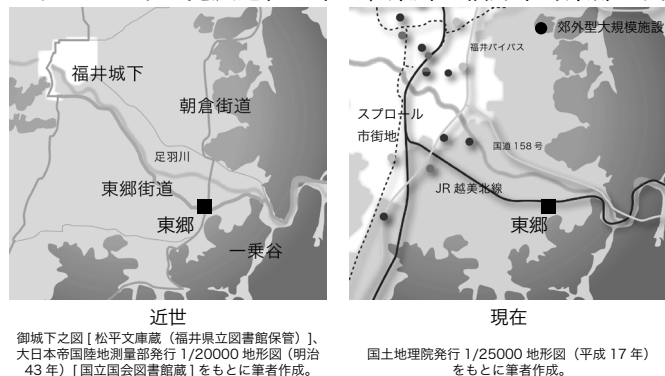


図1：福井平野東部の都市構造

Chronological change of role and structure of traditional country town (Zaigo-machi), Togo in Fukui plain

際に位置し、南北方向の市街地の拡大からは取り残されたと言える。

## 3. 東郷の役割と空間構造の変化

以上のような福井平野の発展過程の中で、東郷の役割は、3つの時期で大きく変化した。中世から近世にかけての「在郷町期」、明治から戦後にかけての「中心性の増大期」、高度経済成長期以降の「郊外化の進展期」である。以下では、各時期の福井平野の大きな都市構造の変化と、それに伴う東郷の役割と空間構造の変化を記す。

## 3-1. 中世 - 近世：在郷町期

中世から近世にかけて、各時代の権力の拠点に応じた道路網が整備された。戦国時代、東郷の背後にそびえる槇山には東郷城（槇山城）があった。当時朝倉氏が一乗谷に城を構えており、東郷城はその出城的存在であった。朝倉氏が物資運搬のため整備した朝倉街道は、『越藩拾遺録』の記述から、槇山の脇を南北に通っていたことが推測される。近世になり福井城に中心が移ってからも、東郷街道が大野藩の参勤交代路となったことから、東郷は交通の要衝となった。

結果として、東西の東郷街道と南北の朝倉街道とで、東郷の骨格が形成され、特に東郷街道に沿って商工業が集積した。東郷は、中世と近世の街道の結節点となったことで、在郷における町としての位置づけを確立するに至った。

幕末頃作成されたとされる『越前国地理全図』にも東郷街道及び朝倉街道が明示されている。また、東郷のみが「町」として記されており、周辺の農村とは一線を画していたことが分かる。「宿場問屋や商家が軒を並べ、制札場などもあった」<sup>2)</sup>「商家多く一面市街地である関係で、近在の農村民が多く集まり盛況」<sup>3)</sup>といった記述から、在郷町としての農村に対する中心性と賑わいが推し量られる。

## 3-2. 明治 - 戦後：中心性の増大期

明治から戦後にかけて、町村制の実施によって、東郷は行政上の中心となった。明治22年4月、東郷と周辺農村を一つの行政単位とする東郷村が誕生した。さらに、昭和30年7月の合併を経て足羽村となった。

明治33年の地形図（図2）を見ると、東西の東郷街道沿いに立ち並んだ建築物に対して、南北それぞれの裏手に、郵便局、駐在所、村役場、登記所、学校が配されたことが分かる。商工業についても、1950年代、周辺村落民の生活必需品は、東郷の商業地から供給されていた<sup>4)</sup>。

SHIBATA Ayaka, NISHIMURA Yukio, KUBOTA Aya,  
KUROSE Takefumi, NAKAJIMA Shin

明治から戦後にかけて、街道に沿った商工業地とその裏手の近代施設という構成が生まれた。近世までの、在郷における自然発生的な商工業の中心地という役割を維持しながら、行政機能が付与されたことで、他農村との違いがいつそう際立った。



図 2：大日本帝国陸地測量部 発行 1/20000 地形図（明治 43 年）福井及鯖江近傍 7 号 福井

### 3-3. 高度経済成長期以降：郊外化の進展

昭和 41 年以降の福井バイパス（国道 8 号）をはじめとする道路網整備により、高度経済成長期以降は道路網を中心とした市街地整備が進んだ。特に幹線道路沿いには、大規模施設が建設された（図 1）。また昭和 46 年の福井市編入に伴い、役場や登記所といった行政機能は失われた。

現在の東郷は、東郷街道沿いに数軒の商店が残るのみである。商工業が衰退の一途を辿る一方、宅地は南北に拡大を続けてきた。昭和 35 年に JR 越美北線が町の北側を通るルートで開通し、越前東郷駅が開設されたことが、南北方向、特に北側への拡大を決定的なものにした。現在も宅地は拡大をつづけており、JR 越美北線の線路を超えて、農地が宅地化されている（図 3）。

また、戦後の農地改革によって地主制度が解体され、農業形態が大きく変化したことも、東郷の役割の変化に大きな影響を与えた。福井平野の農業は、稲作が中心である。旧足羽町全体、東郷地区ともに 1970 年の専業農家数は、1950 年の約 5% に減少していることが図 4 から分かる。



図 3：国土院発行 1/25000 地形図（昭和 52 年）福井

さらに、現在では専業農家は東郷地区（東郷及び周辺農村）において 1, 2 軒であるという。その一方で、平成 24 年の東郷の農業組合員数は 496 人（但し複数の用水にわたる水田を所有する場合重複あり）を数え、広大な農地

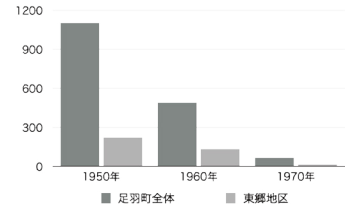


図 4：専業農家数の変化  
農林省統計調査部発行 世界農林業センサス 市町村別統計書 18 福井県による。

が残る。以上から、農業の兼業化や農作業委託が進んでいることが分かり、農村を定義する最大の要素ともいえる、「農業を生業としている村落」という側面は薄れた。

商工業の衰退と農業形態の変容によって、かつての在郷町と農村は、生業を介した関係性を失った。農村との関係性の中で存在した在郷町、という特質を失ったと言える。

## 4. これからの東郷の役割

近世の在郷町として商業集積があった東郷は、明治から戦後にかけて近代施設が配され、周辺村落民が日常的に訪れる町として機能するようになった。また、施設が配されたことで、宅地の範囲も東郷街道から南北に拡大しはじめた。一方で、高度経済成長期以降、商業機能を幹線道路沿いに奪われ、市町村合併によって行政機能も失った。現在に至るまで南北に宅地化が進み続け、中心部には空家・空地が出始めている。この過程において、「農村地帯に町があること」ならではの特徴は薄れ、郊外の一部になりつつあると考える。

用水路や農地といった農村地帯ならではの資源と、小学校やスーパーといった施設の両方が近接して存在することをどのように活かすか、すなわち現代における在郷町の意義を考えることが、今後の東郷における課題であろう。

- 1) 高橋康夫他編『図集日本都市史』（東京大学出版会，2013）
- 2) 福井県編『図説福井県史』（福井県，1998）
- 3) 東郷村誌編纂会『東郷村誌 前編』（東郷村，1952）
- 4) 文献 3) によると、「日用食料品店、鉄工業、仕立屋、文房具屋、金物屋、お茶および陶器販売、傘屋、魚店、菓子屋、下足屋、呉服屋、自転車屋、家具屋、畳屋、桶屋、雑貨屋、油屋、散髪屋、電気器具屋、時計修繕、指物屋、醤油屋、豆腐屋、酒屋」が立地したとされる。

\* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 修士課程  
 \*\* 東京大学先端科学技術研究センター 教授  
 \*\*\* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授  
 \*\*\*\* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 助教  
 \*\*\*\*\* 東京大学先端科学技術研究センター 特任助教

\*Master Course, Dept. of Urban Engineering, School of Engineering, the University of Tokyo  
 \*\*Professor, RCAST, the University of Tokyo  
 \*\*\*Associate Professor, Dept. of Urban Engineering, School of Engineering, the University of Tokyo  
 \*\*\*\*Asst. Professor, Dept. of Urban Engineering, School of Engineering, the University of Tokyo  
 \*\*\*\*\*Asst. Professor, RCAST, the University of Tokyo